

65歳から脳を守ろう理事長コラム 第20回 令和7年（2025年）12月

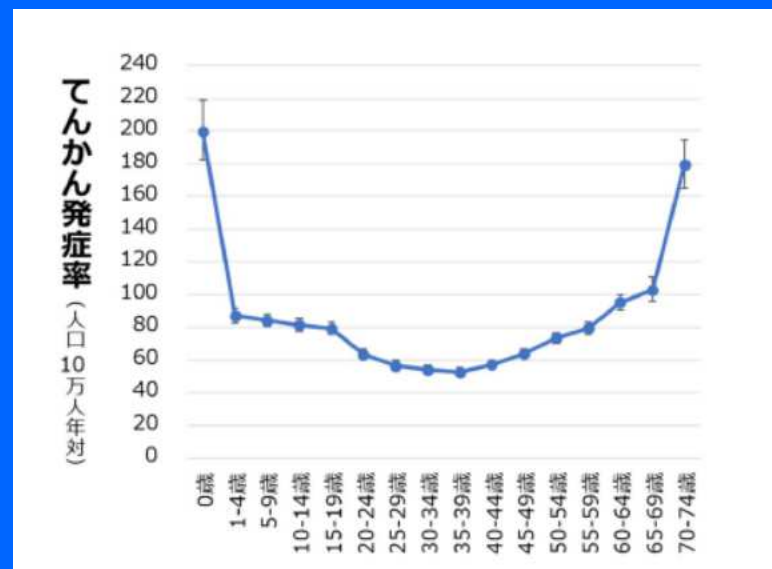
「てんかんは高齢者にも多い病気です」

皆さんは「てんかん」というと若い人が突然意識をなくし倒れ、目を上転し(いわゆる白目を向いた状態)数分手足をバタバタさせ、その後眠りにつく、こういったイメージをもたれているのではないのでしょうか？

てんかん発作は脳の異常興奮によって起こる疾患で、小児に最も多いですが小児に次いで多いのが、いわゆる高齢者てんかんと呼ばれるものです。(図1)



(図1)



出典(Kuris A et al. J Epidemiol 2024;34(2):70-75)

高齢者てんかんの原因は脳卒中が、背景にある場合が多いといわれています。脳卒中以外にも脳炎、認知症等もてんかん発作を起こす原因になっています。高齢者のてんかん発作で特に脳の疾患が指摘されていない場合には、上記の突然倒れ手足をばたばたさせるといった派手な発作が少なく、むしろ突然口をもぐもぐさせて一点を見つめるようになって反応しなくなるといったようなケースが多く見られます。



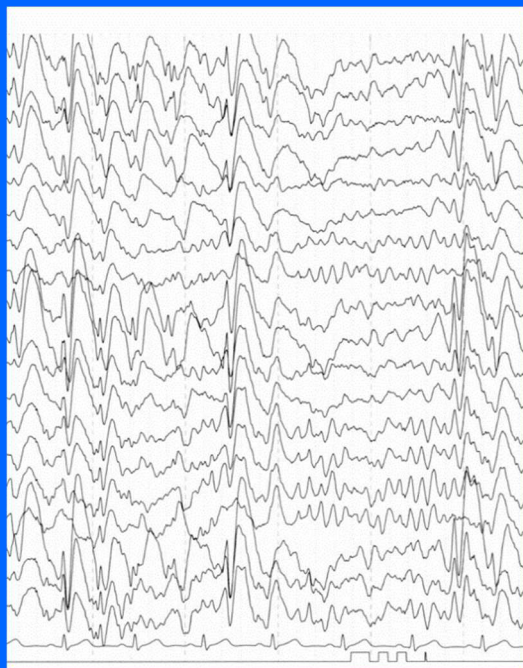
長い期間、反応がなくぼんやりとしていて認知症を疑われていましたが、実はてんかん発作が長時間続いていた（重責発作といいます）というケースもあります。高齢者の方で、ぼんやりとしていて反応が悪くなるといった場合には、てんかん発作も疑い脳の検査を受けることをお勧めします。



病院では、発作の状況をお伺いしたのち神経に異常がないか診察させていただき、血液検査、脳の画像検査（通常は脳MRI）、てんかんの診断の決め手となる脳波検査を行うことになります。

脳の様々な箇所^{きょくじょはふくごう}に尖った波と大きな緩い波の複合体（棘徐波複合）がみられます。（図2）

てんかんの診断がつくと、抗てんかん薬の内服が可能となり、発作の多くを抑えることができ、日常生活を問題無く過ごせる場合が多いです。高齢者にもてんかん発作はあるんだということを知っていただければと思います。



（図2）てんかん発作遷延時の脳波

話は変わりますが、脳の細胞は無酸素や血流の遮断に弱く、すぐ死んでしまうといわれています。私自身は、この脳の細胞の血流遮断による弱さに打ち勝つことができないか長年研究をしてきましたので、次回はそのお話を少しさせていただければと思います。虚血耐性(きょけつたいせい)と呼ばれているものです。

